

冬季競技の活性化による東日本の復興
—国内最大級の複合型ウィンタースポーツ施設の建設—

早稲田大学 武藤ゼミ B

○細畑美萌 安宅美季 徳島翔 中田健斗
前田悠貴 宮澤真菜 矢野周平 若木演

(1)目的

冬季種目の競技人口の減少、メダル獲得数の低下が顕著になり、以前のようなウィンタースポーツの人気を取り戻し冬季競技の活性化を図りたい。また、冬季競技の活性化のための施策を、東日本大震災からの復興の担い手にもしたい。

(2)方法

冬季競技の現役選手にアンケート調査を行って現状を把握した。また、日本国内のスポーツ施設と海外のスポーツ施設を比較し、海外ではどのように冬季競技の活性化を図っているかを調べ、今回の政策提言について考えた。

(3)現状

冬季競技の現役選手に行ったアンケート調査では、改善すべき点として「場所が限られていること」「競技人口が少ないこと」「施設があっても必ずしもチームが使えるわけではない」ということが多く挙げられた。現役の選手はこれからも続けたいと思っている人が多いが、競技を続けられる環境がなかなかないのも現状である。また、海外の場合は商業施設を併設した複合型のスポーツ施設が普及しているが、日本は競技施設が単独で建設されている施設がほとんどである。

(4)考察

(3)の現状でも述べたとおり、日本国内において冬季競技を行うことができる施設の数が少ないことや、競技施設が単独で建設されているために海外の複合型施設に比べてあまり気軽さがなかったことが問題として考えられる。そこで一般の人達が気軽に利用できて、なおかつ競技レベルの向上も図れるようなトレーニングセンターを併設した冬季競技の複合施設を建設することで、競技人口や競技レベルの向上を実現することができるのではないかと考えた。

(5)政策

海外にはサッカースタジアムに代表されるような複合施設が多くある。この中で我々はドバイの複合型商業施設「SKI DUBAI」^{注1}やサッカーナショナルトレーニングセンターJヴィレッジ^{注2}を参考にした、冬季種目の複合型商業施設を北関東に建設することを提案する。今回は震災の復興も狙いであるため、電力会社が建設の際の出資を行い、太陽光発電の実験設備も導入する。北関東を建設地にしたのは、被災地でもあるし、都内からのアクセスも良く広大な土地を利用することができると思ったからである。この複合施設のコン

テントは、アイスアリーナをはじめ大型ショッピングモールや映画館、病院、ホテル、レストランなどである。アイスアリーナにはフィギュアスケート・スピードスケート・カーリング専用のリンクを造る。また、国立科学スポーツセンター^{注3}のようなアスリートのためのトレーニングセンターや選手の宿泊施設を併設し、ここで研究や合宿も行い競技力の向上を図る。本格的な施設で競技力の向上とともに、一般の人でも気軽に利用できる施設であるため、競技人口を増やしてこの複合施設から日本国内の冬季競技を活性化させる。また、この複合施設の収益金を東日本大震災の復興のための義援金にし、一日も早い震災からの復興を目指す。

<資料・文献>

注 1) Ski Dubai <http://www.skidxb.com/home.aspx>

注 2) サッカーナショナルトレーニングセンターJ ヴィレッジ www.j-village.jp/

注 3) 国立科学スポーツセンター <http://naash.go.jp/jiss/>